

コロナ禍における小・中学生のキャリア意識形成イベントの実践

—こども 夢・創造プロジェクトを事例として—

Practice of career awareness building event for elementary and junior

high school students during the COVID-19 pandemic

— Children's Dream Creation Project as a Case Study —

中嶋 克成

I. はじめに

2019年より続くCovid-19は経済・教育をはじめとする我が国のあらゆる分野で極めて大きな影響をもたらした。教育分野においては、対面イベントの中止や移動制限など様々な活動制限が生じた。中でも、初等・中等教育の段階にある者にとっての影響は大きく、校外の学習活動や対面の活動を制限されるなど、本来得られるべき体験や学習が極めて限定的なものとなってしまっている。

このような中、大阪市では感染拡大に十分留意しながら、従前より続けていた小・中学生向けキャリアイベント「こども 夢・創造プロジェクト 2020」を開催し、コロナ禍においても小・中学生の体験活動を継続した。

本稿ではコロナ禍で実施された小・中学生向けキャリアイベント「こども 夢・創造プロジェクト 2020」が、参加者の生きる力の育成にとっていかなる効果があったかを検証することを目的とする。

こども 夢・創造プロジェクトとは、大阪市内在住の小学校高学年・中学生を対象としたキャリア意識を醸成するプログラムである。プログラムは複数用意しており、参加者は自身の興味に応じて選ぶことができる¹⁾。各プログラムは2～5日程度で実施される（詳しくは後述）。

こども 夢・創造プロジェクト実行委員会の掲げる趣旨は以下の通りである。

大阪の誇る文化のや産業の担い手、こども達のあこがれの人物から自分の興味、関心のある分野について直接学び、個性や創造性、将来の夢や希望を育むことにより、次代の担い手となる青少年の健全育成をめざします。

(出典：こども 夢・創造プロジェクトホームページ

<https://www.kodomo-yumepro.org/>)

- こども 夢・創造プロジェクトのコンセプトとしては、
- ①「大阪の誇る優れた人材、あこがれの人に直接教えてもらう」
 - ②「こども達の興味・関心のあることについて自主的・自発的な参加」
 - ③「学校の教科にはない学習内容（教科にはない分野、より深く発展的な内容の学習）」
 - ④「土日祝、放課後、夏休みなどの長期の休み期間等、学校の授業時間外を活用」
 - ⑤「一過性のイベントではない、体系化されたプログラムで実施」
 - ⑥「効果のあがる学習のため、少人数で実施」
 - ⑦「企業等の協力を得て実施」
- などがあげられている²⁾。

Point1	講 師	各分野のプロフェッショナルが講師をつとめるより本格的な体験
Point2	参加方式	意欲をもって自主的・自発的に個人単位で選択・参加
Point3	分 野	学校の教科等では体験の機会が少ない分野やより発展させた分野
Point4	内 容	ちょっとした体験ではなくじっくり取り組む実践的な内容
Point5	協 働	各プログラムは民間企業や団体、専門学校等の協力を得て開催

図1. こども 夢・創造プロジェクトの特色

(出典：こども 夢・創造プロジェクトホームページ

<https://www.kodomo-yumepro.org/>)

当該「こども 夢・創造プロジェクト」は、2010年度から継続的に開催されており、本稿対象の2020年度については、新型コロナウイルスの感染拡大防止に留意しながら実施された。

なお、本論文は、以下のように構成されている。

Ⅱでは、本研究の方法（アンケート調査）とその分析の方向性について記述している。Ⅲでは、Ⅱの方法のもと示された結果を示し、考察を行っている。Ⅳでは、今回の研究結果について総括している。

Ⅱ. 方法

1. 参加者対象の量的調査の概要

ここからは、「生きる力」に関わる能力の向上について、参加者を対象としたアンケート調査の結果をもとに事業全体および事業毎に評価していく。

評価にあたっては、本プログラムを評価するため前年度まで活用していた「生きる力調査」の評価法³⁾を踏襲し、事前・事後に18の評価項目からなるアンケートを実施し、その変容度を分析した。アンケートは各項目で「とてもあてはまる」を6点、「全くあてはまらない」を1点として1点刻みの6段階（6～1点）で得点化し、項目毎に平均点（M）および標準偏差（SD）を算出した。併せて、「生きる力」評価の上位項目（「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」）およびその下位項目（「意志力」ほか：後述）毎についても同様に算出した。これら算出値による分析に加え、

各項目の6点ないし5点（肯定的評価）を選択した割合がどのくらい増加したかという尺度でも分析した。その割合が10%以上の場合が「10増」、20%以上の場合が「20増」と表示した。

本事業参加者の事前・事後での評価項目の変容度の分析は、ばらつき（標準偏差 SD）に留意しつつ、全体および上位項目・下位項目は平均点の有意差検定（t 検定）により有意差を分析しているが、①事業ごとに参加者にばらつきがあること（最小6名、最大19名）、②2020年度はコロナ禍での感染防止に最大限配慮し小規模での実施に代えたこと（2019年度参加者247名→2020年度参加者62名）などから、結果の解釈においては注意が必要である。したがって、平均値や有意差検定の評価を参考としながら⁴⁾、各事業の「生きる力」について総合的に分析することとした。なお、2020年度はコロナ禍の実施となったため参加者が少人数であることから、2019年度以前の調査⁵⁾では言及していなかった中央値の差の検定も参考に付記している。

2. 評価項目

評価項目については表1の通りである。これは、経済産業省の「社会人基礎力」、文部科学省の「生きる力」を参考に構成した。

表1. 評価項目表

評価項目表			項目No.
前に踏み出す力	意志力	自分から進んでなんでもやる	1
		自分の持っている力をのばそうとする	2
	働きかけ力	活動が活発にできて動きもすばらしい	3
		だれにでもあいさつできる	4
	実行力	さまざまなことを実際に体験しようとする	5
		自分でできることは自分でする	6
考え抜く力	課題発見力	自分にわりあてられた仕事はしっかりやる	7
		何が問題なのか、どうしたら良くなるかを考えることができる	8
	計画力	きまりやルールを守ることができる	9
		未来の夢と希望を持っている	10
	創造力	やりたいことがたくさんある	11
		道具を上手に使える	12
チームで働く力	発信力	話す、書く、踊る、歌うなど（の方法）で自分を表現することができる	13
		自分の伝えたいことを相手にわかりやすく伝えることができる	14
	傾聴力	人の話をきちんと聞き取ることができる	15
		自分と違う意見や考えを受け入れることができる	16
	状況把握力	いま何をすればよいか自分で判断できる	17
		安全への関心があり、危ないことをさけることができる	18

（出典：筆者作成）

表2. 対象者の属性

学 年	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年	合 計
男 子	3名	4名	4名	5名	1名	0名	17名
女 子	13名	8名	10名	8名	4名	2名	45名
合 計	16名	12名	14名	13名	5名	2名	62名

(出典：筆者作成)

表3. 生きる力集計結果

能力	調査項目	事前調査		事後調査		
		M	SD	M	SD	
生きる力		91.6	10.2	95.9	11.3	
前に踏み出す力		30.1	3.8	31.8	4.2	
意志・働きかけ・実行力	意志カ	1自分から進んでなんでもやる	4.9	0.9	5.2	0.9
		2自分の持っている力をのばそうとする	5.1	0.9	5.4	0.8
	働きかけカ	3活動が活発にできて動きもすばらしい	4.5	1.0	4.9	1.0
		4だれにでもあいさつできる	5.3	0.8	5.4	0.8
	実行力	5さまざまなことを実際に体験しようとする	5.3	0.9	5.5	0.7
		6自分でできることは自分でする	5.0	1.0	5.4	1.0
考え抜く力		31.6	3.1	32.5	3.7	
課題発見・計画・創造力	課題発見カ	7自分にわりあてられた仕事はしっかりやる	5.3	0.8	5.5	0.8
		8何が問題なのか、どうしたら良くなるかを考えることができる	5.0	1.0	5.3	1.0
	計画カ	9きまりやルールを守ることができる	5.4	0.8	5.5	0.8
		10未来の夢と希望を持っている	5.5	1.0	5.6	0.8
	創造カ	11やりたいことがたくさんある	5.7	0.7	5.7	0.7
		12道具を上手に使える	4.8	1.0	5.1	1.0
チームで働く力		29.9	4.3	31.6	4.2	
発信・傾聴・状況把握力	発信カ	13話す、書く、踊る、歌うなどで自分を表現することができる	5.0	1.0	5.2	1.0
		14自分の伝えたいことを相手にわかりやすく伝えることができる	4.5	1.2	5.0	1.1
	傾聴カ	15人の話をきちんと聞き取ることができる	5.0	1.1	5.2	1.0
		16自分と違う意見や考えを受け入れることができる	5.3	0.8	5.5	0.8
	状況把握カ	17いま何をすればよいか自分で判断できる	4.6	1.0	5.1	1.0
		18安全への関心があり、危ないことをさけることができる	5.5	0.7	5.6	0.7

*各項目で「とてもあてはまる」を6点、「まったくあてはまらない」を1点としてそれぞれ1点刻みで得点化し、項目ごとに平均点(M)及び標準偏差(SD)を算出

■ 「6 とてもあてはまる」または「5」を回答した人数が20%以上増えた項目

■ 「6 とてもあてはまる」または「5」を回答した人数が10%以上増えた項目

(出典：生きる力アンケート結果より筆者作成、以下すべて表は同じ資料より筆者作成)

Ⅲ. 結果および考察

1. 事業全体に関する評価

本事業は、趣旨に示されているように、さまざまな分野の「プロフェッショナル」な講師をむかえ、小学生や中学生のあこがれの分野や技術、作品作りなどを本格的に体験できるプログラムである。2020年度は当該趣旨にのっとり、6つのプログラムが実施された。

事業全体に関する評価のため、全6プログラムについてアンケート結果に基づき分析を行った。評価・分析の対象は、全プログラム参加者63名のうち、事前および事後の調査の両方に回答した62名（男子17名、女子45名）とした。

表2はプログラム参加者の属性である。参加者の内訳は小学生計42名、中学生計20名であった。

表3は生きる力の集計結果を示したものである。各項目で「とてもあてはまる」を6点、「まったくあてはまらない」を1点としてそれぞれ1点刻みで得点化し、項目ごとに平均点(M)及び標準偏差(SD)を算出している。全62名分のデータを分析した結果、事前調査の全事業の平均得点は91.6から、事後調査では95.9に4.3ポイント伸びており、事業全体として参加者の「生きる力」の向上が示唆された。また、「生きる力」全体、全ての上位項目及び全ての下位項目で有意差が認められた。上位項目では3項目中「前に踏み出す力」、「チームで働く力」の2項目が「10増」している。

評価項目別に見ても全ての項目で得点の平均値が向上している。特に、「意志力」、「実行力」、「発信力」の3つの下位項目については、下位項目を構成する2評価項目とも上昇しており、大きく向上した力ということができる。

一方で「11 やりたいことがたくさんある」は事前(5.7)、事後(5.7)とも同水準であった。参加者らは申し込み時点で自分の興味・関心にしたがってプロジェクトを選択しており、もともと参加したかったプロジェクトに参加していることになる。そのため、プロジェクトに参加しても「やりたいこと」が新たに増えるということはなかったものと思われる。

2. プログラム毎の評価

a. 「世界に羽ばたく！子役体験」(参加者10名)

「世界に羽ばたく！子役体験」では、英語・お芝居・ダンスのワークショップを行いながら、短い舞台作品を作り、最終日に発表を行う。

表4.1には「世界に羽ばたく！子役体験」で有意差のあった項目を示している。また、併せて表4.2では、中央値の差の検定による評価結果を示している。「生きる力」全体の得点は事前調査の84.5から88.2に3.7ポイント向上している。また、「生きる力」全体、上位項目「チームで働く力」、下位項目「発信力」、「傾聴力」、「状況把握力」では、平均値の差の検定の結果(表4.1)、中央値の差の検定の結果(表4.2)とも有意差が認められた。

上位項目「前に踏み出す力」、「チームで働く力」のほと

んどの項目で事前評価よりも事後評価が向上している。特に「チームで働く力」については、すべての下位項目(「発信力」、「傾聴力」、「状況把握力」)で肯定的評価が10%

表4.1「世界に羽ばたく！子役体験」で有意差のあった項目

生きる力得点			
	M	SD	t(9)
体験前	84.50	10.24	2.87***
体験後	88.20	11.06	
上位項目「チームで働く力」			
	M	SD	t(9)
体験前	25.60	4.15	3.85***
体験後	29.10	3.42	
下位項目「発信力」			
	M	SD	t(9)
体験前	7.80	1.54	2.87***
体験後	9.10	2.12	
下位項目「傾聴力」			
	M	SD	t(9)
体験前	8.60	1.80	3.09****
体験後	9.80	1.40	
下位項目「状況把握力」			
	M	SD	t(9)
体験前	9.20	1.94	2.54*
体験後	10.20	1.08	

*p<.05 **p<.01 ***<.001

表4.2「世界に羽ばたく！子役体験」中央値

生きる力得点		
	中央値(四分位範囲)	p
体験前	87.00(80.75-91.00)	0.029***
体験後	88.00(84.25-94.00)	
上位項目「チームで働く力」		
	中央値(四分位範囲)	p
体験前	26.50(23.75-28.50)	0.009***
体験後	28.00(26.25-32.00)	
下位項目「発信力」		
	中央値(四分位範囲)	p
体験前	7.50(6.25-9.00)	0.021**
体験後	9.50(9.00-10.75)	
下位項目「傾聴力」		
	中央値(四分位範囲)	p
体験前	8.50(8.00-9.75)	0.034**
体験後	9.050(9.00-10.75)	
下位項目「状況把握力」		
	中央値(四分位範囲)	p
体験前	10.00(9.25-10.00)	0.031**
体験後	10.00(10.00-11.00)	

*p<.05 **p<.01 ***<.001

以上増加している。「前に踏み出す力」も「2自分の持っている力をのばそうとする」以外は肯定的評価が10%以上増加している。中でも、評価項目「3活動が活発にできて動きもすばらしい」、「4だれにでもあいさつできる」、「5さまざまなことを実際に体験しようとする」、「13話す、書く、踊る、歌うなどで自分を表現することができる」、「14自分の伝えたいことを相手にわかりやすく伝えることができる」、「15人の話をきちんと聞き取ることができる」、「17いま何をすればよいか自分で判断できる」、「18安全への関心があり、危ないことをさけることができる」は事前の結果よりも20%以上も肯定的評価が増加するなど顕著な向上がみられる。

【「20増」した項目】（9項目）

- 「3活動が活発にできて動きもすばらしい」
- 「4だれにでもあいさつできる」
- 「5さまざまなことを実際に体験しようとする」
- 「12道具を上手に使える」
- 「13話す、書く、踊る、歌うなどで自分を表現することができる」
- 「14自分の伝えたいことを相手にわかりやすく伝えることができる」
- 「15人の話をきちんと聞き取ることができる」
- 「17いま何をすればよいか自分で判断できる」
- 「18安全への関心があり、危ないことをさけることができる」

【「10増」した項目】（3項目）

- 「1自分から進んでなんでもやる」
- 「6自分でできることは自分でする」
- 「16自分と違う意見や考えを受け入れることができる」

b. 「ウッドクラフトワークショップ」（参加者6名）

「ウッドクラフトワークショップ」では、自分でデザインしたサイドテーブルをカンナやノコギリ、電動工具などを使いながら作る。デザイン手法を学びながら、木工職人の体験をする。

「生きる力」は事前調査の94.0から96.2に2.2ポイント向上している。結果を見ると「生きる力」全体、上位項目・下位項目とも有意差は認められなかった。

上位項目「前に踏み出す力」が30.2から30.8へ0.6ポイント向上、「チームで働く力」が0.2ポイント向上しているのに対し、「考え抜く力」は31.8から32.8へ1.0ポイント向上しており、「考え抜く力」の向上は本プログラムの特徴である。「考え抜く力」の中でも下位項目「想像力」は評価項目「11やりたいことがたくさんある」、「12道具を上手に使える」とも肯定的評価をした人数が20%以上増えている。

【「20増」した項目】（5項目）

- 「2自分の持っている力をのばそうとする」
- 「3活動が活発にできて動きもすばらしい」

- 「9きまりやルールを守ることができる」
- 「11やりたいことがたくさんある」
- 「12道具を上手に使える」

【「10増」した項目】

なし

c. 「ニュース番組作成・アナウンサー体験」（参加者10名）

「ニュース番組作成・アナウンサー体験」では、J:COMでニュース番組を作っているプロのスタッフから番組制作の基礎を学び、カメラマン・スイッチャーなど本物の機材に触ってのニュース番組作り体験をするほか、プロのアナウンサーからの発声や原稿の読み方の指導も実施するものである。

表5.1では、「ニュース番組作成・アナウンサー体験」各項目の平均値の差の検定の結果のうち、有意差のあった項目を示している。表5.2では同項目の中央値の差の検定の結果を示している。下位項目「計画力」では平均値の差の検定では有意差が認められたものの、中央値の差の検定では有意差は見られなかった。「生きる力」は事前調査の92.6から95.4へ2.8ポイント向上している。

表 5.1 「ニュース番組作成・アナウンサー体験」で有意差のあった項目

下位項目「計画力」			
	M	SD	t(9)
体験前	10.60	1.43	1.96*
体験後	10.90	1.08	

*p<.05 **p<.01 ***<.001

表 5.2 「ニュース番組作成・アナウンサー体験」中央値

下位項目「計画力」		
	中央値(四分位範囲)	p
体験前	11.00(10.25-11.75)	0.149
体験後	11.00(10.25-12.00)	

*p<.05 **p<.01 ***<.001

下位項目「実行力」および「課題発見力」はそれぞれを構成する2評価項目（実行力：「5さまざまなことを実際に体験しようとする」、「6自分でできることは自分でする」。課題発見力：「7自分にわりあてられた仕事はしっかりやる」、「8何が問題なのか、どうしたら良くなるかを考えることができる」）とも肯定的評価が10%以上増加している。

【「20増」した項目】（3項目）

- 「3活動が活発にできて動きもすばらしい」
- 「6自分でできることは自分でする」
- 「8何が問題なのか、どうしたら良くなるかを考えることができる」

【「10増」した項目】（4項目）

- 「2 自分の持っている力をのぼそうとする」
- 「5 さまざまなことを実際に体験しようとする」
- 「7 自分にわりあてられた仕事はしっかりやる」
- 「12 道具を上手に使える」

d. 「水の化学」 (参加者 8名)

「水の化学」では、透明な水に溶けている様々な物質を調べる。pHやCOD(科学的酸素要求量)などの水質項目の分析を学んだあと、大阪市の水道の仕組みなどを学ぶ。

表 6.1には「水の化学」の平均値の差の検定で、有意差のあった項目を示している。「生きる力」全体では事前調査の97.7から103.0へ5.3ポイントと大幅に向上している。また、上位項目「チームで働く力」、下位項目「発信力」、「傾聴力」、「状況把握力」で有意差が認められた。しかしながら、中央値の差の検定では上位項目「チームで働く力」以外に有意差はみられなかった(表 6.2)。

本プログラムではほとんどの項目で平均値の向上がみられる。特に上位項目「チームで働く力」は31.6から34.4へ向上しており、中でも下位項目「発信力」の「13 話す、書く、踊る、歌うなどで自分を表現することができる」は肯定的評価が20%以上増加している。また、上位項目「前に踏み出す力」はすべての評価項目で平均値が向上しており、「1 自分から進んでなんでもやる」、「2 自分の持っている力をのぼそうとする」、「4 だれにでもあいさつできる」、「5 さまざまなことを実際に体験しようとする」、「6 自分でできることは自分でする」の項目で肯定的評価が10%以上増加している。

【「20 増」した項目】 (1項目)

「13 話す、書く、踊る、歌うなどで自分を表現することができる」

表 6.1 「水の化学」で有意差のあった項目

上位項目「チームで働く力」			
	M	SD	t(6)
体験前	31.57	2.19	2.71**
体験後	34.43	1.59	
下位項目「発信力」			
	M	SD	t(6)
体験前	10.14	0.99	2.49**
体験後	11.29	1.03	
下位項目「傾聴力」			
	M	SD	t(6)
体験前	10.86	0.83	2.52**
体験後	11.71	0.45	
下位項目「状況把握力」			
	M	SD	t(6)
体験前	10.57	1.05	2.12**
体験後	11.43	0.73	

*p<.05 **p<.01 ***<.001

表 6.2 「水の化学」中央値

上位項目「チームで働く力」		
	中央値(四分位範囲)	p
体験前	35.00(33.00-36.00)	0.041**
体験後	35.00(33.00-36.00)	
下位項目「発信力」		
	中央値(四分位範囲)	p
体験前	10.00(9.50-10.50)	0.097
体験後	12.00(11.00-12.00)	
下位項目「傾聴力」		
	中央値(四分位範囲)	p
体験前	11.00(10.00-11.50)	0.094
体験後	12.00(11.50-12.00)	
下位項目「状況把握力」		
	中央値(四分位範囲)	p
体験前	10.00(10.00-11.50)	0.105
体験後	12.00(11.00-12.00)	

*p<.05 **p<.01 ***<.001

【「10 増」した項目】 (7項目)

- 「1 自分から進んでなんでもやる」
- 「2 自分の持っている力をのぼそうとする」
- 「4 だれにでもあいさつできる」
- 「5 さまざまなことを実際に体験しようとする」
- 「6 自分でできることは自分でする」
- 「8 何が問題なのか、どうしたら良くなるかを考えることができる」
- 「17 いま何をすればよいか自分で判断できる」

e. 「和菓子作り体験」 (参加者 10名)

「和菓子作り体験」では、昔から日本の生活の文化に根付いてきたメモリアルな和菓子を最先端の設備の綺麗なアトリエで菓子職人と一緒に作る。

表 7.1には「和菓子作り体験」の平均値の差の検定の結果のうち有意差のあった項目を示している。「生きる力」は事前調査の90.5から95.8へ5.3ポイントと大幅に向上している。また、「生きる力」全体、上位項目「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」、下位項目「意志力」、「実行力」、「課題発見力」、「計画力」で有意差が認められた。この中でも表 7.2が示すように、「生きる力」全体、上位項目「前に踏み出す力」、下位項目「意志力」は、中央値の差の検定でも有意差が認められた。

多くの項目で評価が向上し、平均値が下がった項目はなかった。上位項目「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」とも増加しており、中でも下位項目「意志力」、「働きかけ力」、「課題発見力」、「計画力」は、それぞれを構成するすべての評価項目で肯定的評価が10%以上増加している。さらに、「発信力」はそれを構成する「13 話す、書く、踊る、歌うなどで自分を表現することができ

る」、「14自分の伝えたいことを相手にわかりやすく伝えることができる」とも肯定的評価が20%以上増加している。

- 【「20増」した項目】（6項目）
- 「2自分の持っている力をのばそうとする」
- 「8何が問題なのか、どうしたら良くなるかを考えることができる」
- 「10未来の夢と希望を持っている」
- 「13話す、書く、踊る、歌うなどで自分を表現することができる」
- 「14自分の伝えたいことを相手にわかりやすく伝えることができる」
- 「17いま何をすればよいか自分で判断できる」

表 7.1 「和菓子作り体験」で有意差のあった項目

生きる力得点			
	M	SD	t(9)
体験前	90.50	9.39	2.81**
体験後	95.80	10.57	
上位項目「前に踏み出す力」			
	M	SD	t(9)
体験前	30.20	3.66	1.87**
体験後	32.10	3.78	
下位項目「意志力」			
	M	SD	t(9)
体験前	9.90	1.22	2.74**
体験後	10.90	1.04	
下位項目「実行力」			
	M	SD	t(9)
体験前	10.70	1.10	2.24**
体験後	11.20	0.87	
上位項目「考え抜く力」			
	M	SD	t(9)
体験前	31.10	2.77	2.61**
体験後	32.80	2.75	
下位項目「課題発見力」			
	M	SD	t(9)
体験前	10.00	1.61	2.59**
体験後	10.90	0.94	
下位項目「計画力」			
	M	SD	t(9)
体験前	10.50	1.28	2.45**
体験後	11.30	1.00	
上位項目「チームで働く力」			
	M	SD	t(9)
体験前	29.20	1.54	2.08**
体験後	30.90	1.00	

*p<.05 **p<.01 ***<.001

表 7.2 「和菓子作り体験」中央値

生きる力得点		
	中央値(四分位範囲)	p
体験前	90.00(86.25-96.25)	0.014**
体験後	99.00(88.25-103.75)	
上位項目「前に踏み出す力」		
	中央値(四分位範囲)	p
体験前	30.00(29.00-32.75)	0.035**
体験後	33.00(29.50-35.75)	
下位項目「意志力」		
	中央値(四分位範囲)	p
体験前	10.00(9.25-10.75)	0.034**
体験後	11.00(10.00-12.00)	
下位項目「実行力」		
	中央値(四分位範囲)	p
体験前	11.00(10.00-11.75)	0.072
体験後	11.50(10.25-11.75)	
上位項目「考え抜く力」		
	中央値(四分位範囲)	p
体験前	31.00(28.50-33.00)	0.103
体験後	33.00(30.75-35.00)	
下位項目「課題発見力」		
	中央値(四分位範囲)	p
体験前	10.50(9.00-11.00)	0.056
体験後	11.00(10.25-11.75)	
下位項目「計画力」		
	中央値(四分位範囲)	p
体験前	10.50(10.00-11.75)	0.054
体験後	11.00(10.25-11.75)	
上位項目「チームで働く力」		
	中央値(四分位範囲)	p
体験前	29.50(28.25-30.75)	0.078
体験後	32.50(28.25-34.00)	

*p<.05 **p<.01 ***<.001

- 【「10増」した項目】（5項目）
- 「1自分から進んでなんでもやる」
- 「3活動が活発にできて動きもすばらしい」
- 「4だれにでもあいさつできる」
- 「7自分にわりあてられた仕事はしっかりやる」
- 「9きまりやルールを守ることができる」

f. 「本格アフレコスタジオで声優体験」（参加者19名）
「本格アフレコスタジオで声優体験」では、プロの声優から技術等の基本を学び、アニメ声優とアフレコでも共演する。

表 8.1には、「本格アフレコスタジオで声優体験」の平均値の差の検定の結果のうち、有意差のあった項目を示している。「生きる力」全体では事前調査の92.2から97.4へ5.2ポイントと向上している。「生きる力」全体、上位項目「前

に踏み出す力」、下位項目「意志力」、「働きかけ力」、「実行力」、「発信力」に有意差が認められた。特に、表 8.2 で示しているように、「生きる力」全体、下位項目「意志力」、「働きかけ力」、「実行力」では、中央値の差の検定においても有意差が認められた。

上位項目 3 項目とも平均値が増加しているが、特に「前に踏み出す力」(2.8 ポイント増加)、「チームで働く力」

(1.5 ポイント増加)で顕著な伸びがみられる。「前に踏み出す力」では、「1 自分から進んでなんでもやる」、「3 活動が活発にできて動きもすばらしい」、「5 さまざまなことを実際に体験しようとする」、「6 自分でできることは自分でする」で肯定的評価が 20%以上増加している。「チームで働く力」では、「13 話す、書く、踊る、歌うなどで自分を表現することができる」、「14 自分の伝えたいことを相手にわかりやすく伝えることができる」で肯定的評価が 20%以上増加しており、「17 いま何をすればよいか自分で判断できる」で 10%以上増加している。

また、下位項目「実行力」および「発信力」は、それぞれを構成するすべての評価項目で肯定的評価が 20%以上増加している。

表 8.1 「本格アフレコスタジオで声優体験」で有意差のあった項目

生きる力得点			
	M	SD	t(18)
体験前	92.15	10.04	2.12*
体験後	97.42	12.58	
上位項目「前に踏み出す力」			
	M	SD	t(18)
体験前	29.84	3.48	3.41***
体験後	32.58	4.25	
下位項目「意志力」			
	M	SD	t(18)
体験前	10.00	1.34	3.14*
体験後	10.89	1.55	
下位項目「働きかけ力」			
	M	SD	t(18)
体験前	9.84	1.76	2.22*
体験後	10.58	1.60	
下位項目「実行力」			
	M	SD	t(18)
体験前	10.00	1.52	2.90****
体験後	11.11	1.45	
下位項目「発信力」			
	M	SD	t(18)
体験前	9.89	1.92	2.00*
体験後	10.58	1.82	

*p<.05 **p<.01 ***<.001

表 8.2 「本格アフレコスタジオで声優体験」中央値

生きる力得点		
	中央値(四分位範囲)	p
体験前	95.00(83.50-100.00)	0.019**
体験後	103.00(91.50-108.00)	
上位項目「前に踏み出す力」		
	中央値(四分位範囲)	p
体験前	33.00(29.50-35.00)	0.228
体験後	34.00(32.00-36.00)	
下位項目「意志力」		
	中央値(四分位範囲)	p
体験前	10.00(10.00-11.00)	0.0072***
体験後	12.00(10.00-12.00)	
下位項目「働きかけ力」		
	中央値(四分位範囲)	p
体験前	10.00(9.00-11.00)	0.049**
体験後	11.00(9.50-12.00)	
下位項目「実行力」		
	中央値(四分位範囲)	p
体験前	10.00(9.00-11.00)	0.011**
体験後	12.00(10.50-12.00)	
下位項目「発信力」		
	中央値(四分位範囲)	p
体験前	11.00(8.50-11.00)	0.066
体験後	11.00(10.00-12.00)	

*p<.05 **p<.01 ***<.001

【「20 増」した項目】(6 項目)

「1 自分から進んでなんでもやる」

「3 活動が活発にできて動きもすばらしい」

「5 さまざまなことを実際に体験しようとする」

「6 自分でできることは自分でする」

「13 話す、書く、踊る、歌うなどで自分を表現することができる」

「14 自分の伝えたいことを相手にわかりやすく伝えることができる」

【「10 増」した項目】(2 項目)

「12 道具を上手に使える」

「17 いま何をすればよいか自分で判断できる」

IV. むすびにかえて

大阪市では感染拡大に十分留意しながら、従前より続けていた小・中学生向けキャリアイベント「こども夢・創造プロジェクト 2020」を開催し、コロナ禍においても小・中学生の体験活動を継続した。本稿ではコロナ禍で実施された小・中学生向けキャリアイベント「こども夢・創造プロジェクト 2020」の効果を検証するため、「生きる力」に関わる能力の向上について、参加者を対象としたアンケート調査の

結果を事業全体および事業毎に評価した。

全 62 名分のデータを分析した結果、事前調査の全事業の平均得点は 91.5 から、事後調査では 95.9 に 4.4 ポイント伸びており、事業全体として参加者の「生きる力」の向上が示唆された。また、「生きる力」全体、全ての上位項目及びすべての下位項目で有意差が認められた。上位項目では 3 項目中「前に踏み出す力」、「チームで働く力」の 2 項目が「10 増」している。

評価項目別に見ても全ての項目で得点の平均値が向上している。特に、「意志力」、「実行力」、「発信力」の 3 つの下位項目については、下位項目を構成する 2 評価項目とも上昇しており、大きく向上した力ということができる。

一方で「11 やりたいことがたくさんある」は事前・事後とも同水準であり、本プロジェクトは「11 やりたいことがたくさんある」の変化に寄与しなかったといえる。すなわち、このプロジェクトを通して将来希望の職業等が増えるということにはならなかったといえる。参加者らは申し込み時点で自分の興味・関心にしがってプロジェクトを選択しており、もともと参加したかったプロジェクトに参加することになる。そのため、プロジェクトに参加しても「やりたいこと」が新たに増えるということにはなかったものと思われる。いわゆるインターンシップの場合は、参加者は自身の適正を見極めることも目的の一つとなるため、「やりたいこと」の増減の可能性はある。しかしながら、本プロジェクトはあくまで職業体験であり、かつ子供が各プログラムを楽しめることを主眼として構成されていたため「やりたいこと」の増減には寄与しなかったものと推測される。

また、特に中央値の差の検定では、有意差の見られなかった項目が散見された。ここには、サンプル数の少なさや感染症予防のため、一部の活動を制限したことが影響している可能性がある。

以上のようにコロナ禍において、体験内容が制限された状態でも本プロジェクトは参加者のキャリア意識や生きる力を醸成できたといえる。プロジェクト別にみると、母数が少ないため有意差を生じるには至らなかったものもあるが、生きる力は全体として向上傾向といえる。次年度以降のデータも分析に加え、母数を大きくすることで、精緻な分析を行っていく予定である。

【謝辞】

本研究の遂行にあたり、こども夢・創造プロジェクト実行委員長の今西幸蔵先生にはご助言・ご協力を賜りました。ここに深謝の意を表します。

【註】

- 1) 参加者は公募により決定する。
- 2) こども夢・創造プロジェクトホームページに詳しい。
<https://www.kodomo-yumepro.org/>
- 3) 前年度までの本事業「生きる力調査」の分析方法について

ては各年度の大阪市「こども夢・創造プロジェクト事業効果測定分析結果」(今西幸蔵、蓬田高正)に詳しい。

4) 本プロジェクト実施主体である大阪市から要求されているのは平均値の差の検定のみである。

5) 註 3 の調査のことである。

【参考資料】

- ・経済産業省「社会人基礎力」、経済産業省ウェブサイト、
<https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/> (2022年9月20日閲覧)。
- ・文部科学省「生きる力」、文部科学省ウェブサイト、
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/02/14/1413516_001_1.pdf (2022年9月20日閲覧)。